向本折校下のまいぶんマニュアル

ぜひ授業で紹介してほしいポイント！

★☆向本折校下ってこんなところ！☆★

地形／向本折校下は海に面した**平野**にあります。
もともと海だった場所が、約 5,000 年前の縄文時代中ごろから
約 2,300 年前の弥生時代にかけて陸地となり、ひとが生活するようになりました。
また、**その頃に今江潟の原形ができたと考えられています。**

地形の説明

現在**向本折校下で遺跡は未確認**なので、文献や周辺の遺跡からわかっていることをお伝えします。

●「本折（もとおり）」の由来と歴史

その１＝**奈良時代（西暦７８０年）**に書かれた奈良県の**西大寺（さいだいじ）**が所有していた**荘園（しょうえん）**（農地）の記録に「**江沼郡本堀荘**」があり、その場所が現在の「本折」周辺ではないかと言われています。

その２＝**室町時代（西暦１４００年代）**に書かれた文献には、南加賀を治めた守護（しゅご）の富樫（とがし）氏に仕えた国人（こくにん）「**本折氏**」がたびたび登場します。また、**北陸道（ほくりくどう）**（のちの北国街道）を旅した歌人**道興（どうこう）**が**「本折」で絹を織る人を見てよんだ和歌**が残されています。この頃に鍛冶（かじ）職人の工房や住まいがあったのが、年表に登場する芦城校下の「**幸町遺跡（さいわいちょう）**」です。

幸町遺跡紹介

その３＝**江戸時代**になるまで**「本折」とは九龍橋（くりゅうばし）川の南側全体（いわゆる橋南）を指したと**言われます。やがて**西暦１８００年代**に描かれた**「加越能三箇国絵図（かえつのうさんかこくえず）」**（金沢市立玉川図書館所蔵・1865 年写本）などに「**向本折村**」が登場します。

●「大領（だいりょう）」の語源

その１＝「**大領**」という地名は、古代行政区分**「郡」の役人である大領（長官）**に由来します。向本折校下の**大領中町**にも重要な施設があったのかもしれません。

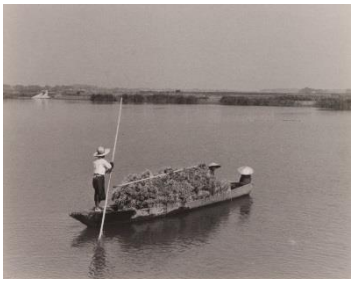
その２＝苗代校下にある**大領遺跡（だいりょう）**では、２つの**道路**が見つかっています。このうち奈良・平安時代の道路は、**官道（かんどう）（国によって整備・管理された道路）**の１つである「**古代北陸道（ほくりくどう）**」と考えられています。

向本折校下紹介

●今江潟の水運と漁業

その１＝年表に登場する丘陵の**南加賀製陶（せいとう）・製鉄（せいてつ）遺跡群**でつくられた**やきもの**や**鉄**は、**今江潟を経由して出荷された**と考えられます。

その２＝**江戸時代**、向本折村の**舟数は能美郡内で今江村に次いで２番目に多く、漁業や水上輸送業が盛んだった**ことが文献からわかります。



干拓前の今江潟